

2016. 10

(島根県道づくり調整会議)



道づくりだより 第104号



-Contents-

1. 一般県道中村津戸港線上西工区
～見通しが悪く危険な交差点が生まれ変わりました～ (道路建設課)
2. 島根県山陰道会議が開催されました (高速道路推進課)
3. 今後の島根の道づくり・地域づくり意見交換会が開催されました (高速道路推進課)
4. 今年も雪の季節がやってきました。(道路維持課)
5. 和田3期地区基幹農道 大田市の農道事業の紹介 (農地整備課)

なかむらつどころせんかみにし
一般県道中村津戸港線上西工区

～見通しが悪く危険な交差点が生まれ変わりました～

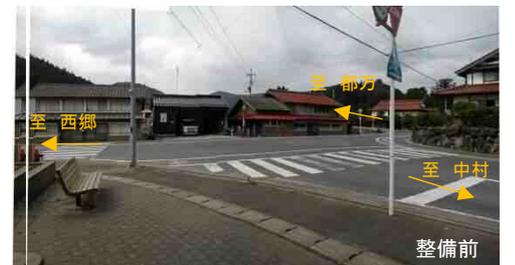
道路建設課

上西工区について

一般県道中村津戸港線^{くらみ}上西工区(蔵見橋)は、一般国道485号との交差点付近に位置し、周辺には原田こども園や中条小学校があることから通学路として利用されています。

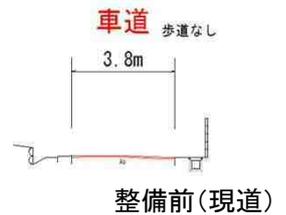
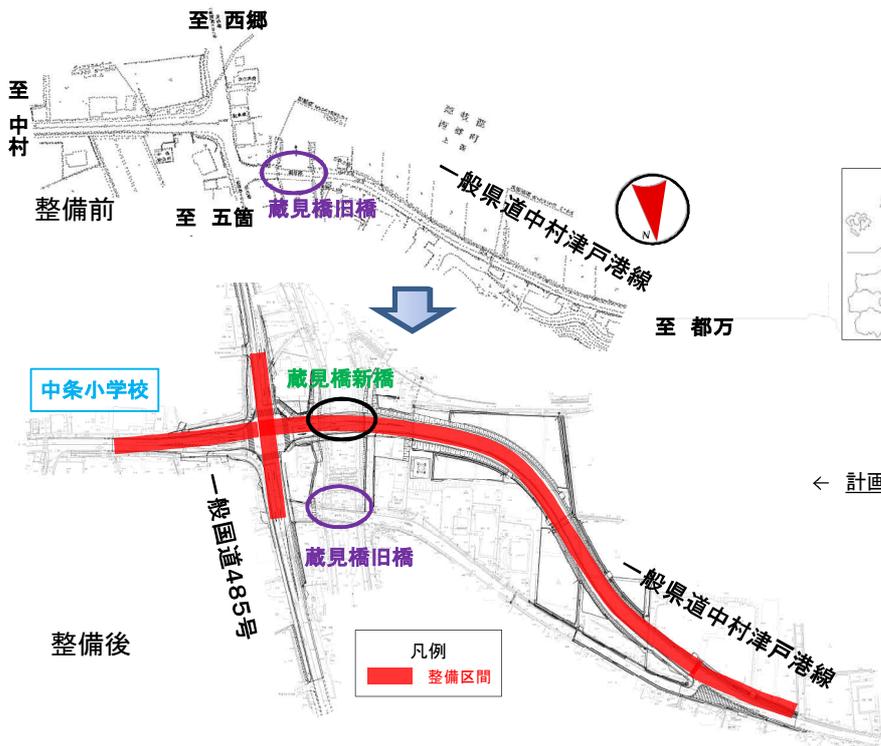
しかし、歩道が整備されていないことに加え、交通量の多い国道との交差点は南北に約40mずれている食い違い交差点であるため、大変見通しが悪く、交通の難所となっていました。

このため、県では平成24年度から新しい蔵見橋を施工して食い違い交差点の解消をするとともに周辺道路に歩道を設置し、安全・安心な道路空間を確保するための工事を進め、この度蔵見橋を含む延長L=720mの区間が供用を開始しました。



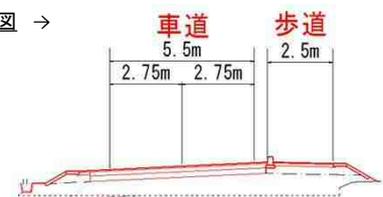
事業概要

- 事業期間 平成24年度～平成29年度(予定)
- 事業費 約620百万円
- 事業延長 720m(うち蔵見橋25.7m)
- 幅員 車道5.5m(2車線)+歩道2.5m



計画平面図

道路横断面図



新しい蔵見橋について

蔵見橋は親しまれるシンボルになるように、床版側面の色彩(明るい黄緑色)を地域の皆様に決定して頂きました。



島根県山陰道会議が開催されました

1. 概要

島根県内の山陰道整備について、事業中区間の更なる事業促進と利活用方策検討のため、関係者の連携による課題解決を図ることを目的として「島根県山陰道会議（※1）」が開催（※2）されました。

※1：国土交通省など官民9団体で組織

※2：平成27年10月23日の設立会に引き続き第2回目の開催

- (1) 日時 平成28年10月27日（木）10：30～12：00
- (2) 場所 島根県市町村振興センター6F大会議室
- (3) 出席者
 - 国土交通省
 - 中国地方整備局 道路部長、松江国道事務所長、浜田河川国道事務所長
 - 島根県
 - 土木部長（代理 土木部技監）、農林水産部次長【林業】、教育長参事【文化財】
商工労働部次長（代理 商工政策課長）
 - 沿線市（副市長）
 - 出雲市、大田市、江津市（代理 経済部門参事）浜田市、益田市
 - 民間
 - 島根県商工会議所連合会交通対策委員長（代理 江津商工会議所副会頭）

2. 会議状況

会議では、中国地方整備局から県内の山陰道整備の状況について説明があり、平成24年度事業化路線の用地買収について、県及び沿線市の支援により、進捗率が飛躍的に上がったとの報告がありました。

また、このほか山陰道の利活用について、県や沿線市から取り組みの紹介が行われ、企業誘致や観光振興などの産業振興施策を戦略的に展開するためにも、山陰道の早期完成を望む声が多く挙がりました。

今後も山陰道会議では、山陰道整備によるストック効果の最大化を図るため、事業促進に向けた課題解決と併せて山陰道の利活用策の検討を行うこととしています。

【用地取得率：面積ベース】

| ※H24 事業化路線 → | 湖陵多伎 (4.5km) | 大田静間 (5.0km) | 三隅益田道路 (15.2km) |
|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| 平成27年度末 | 52% | 42% | 36% |
| 平成28年度末見込み | 97% | 96% | 95% |

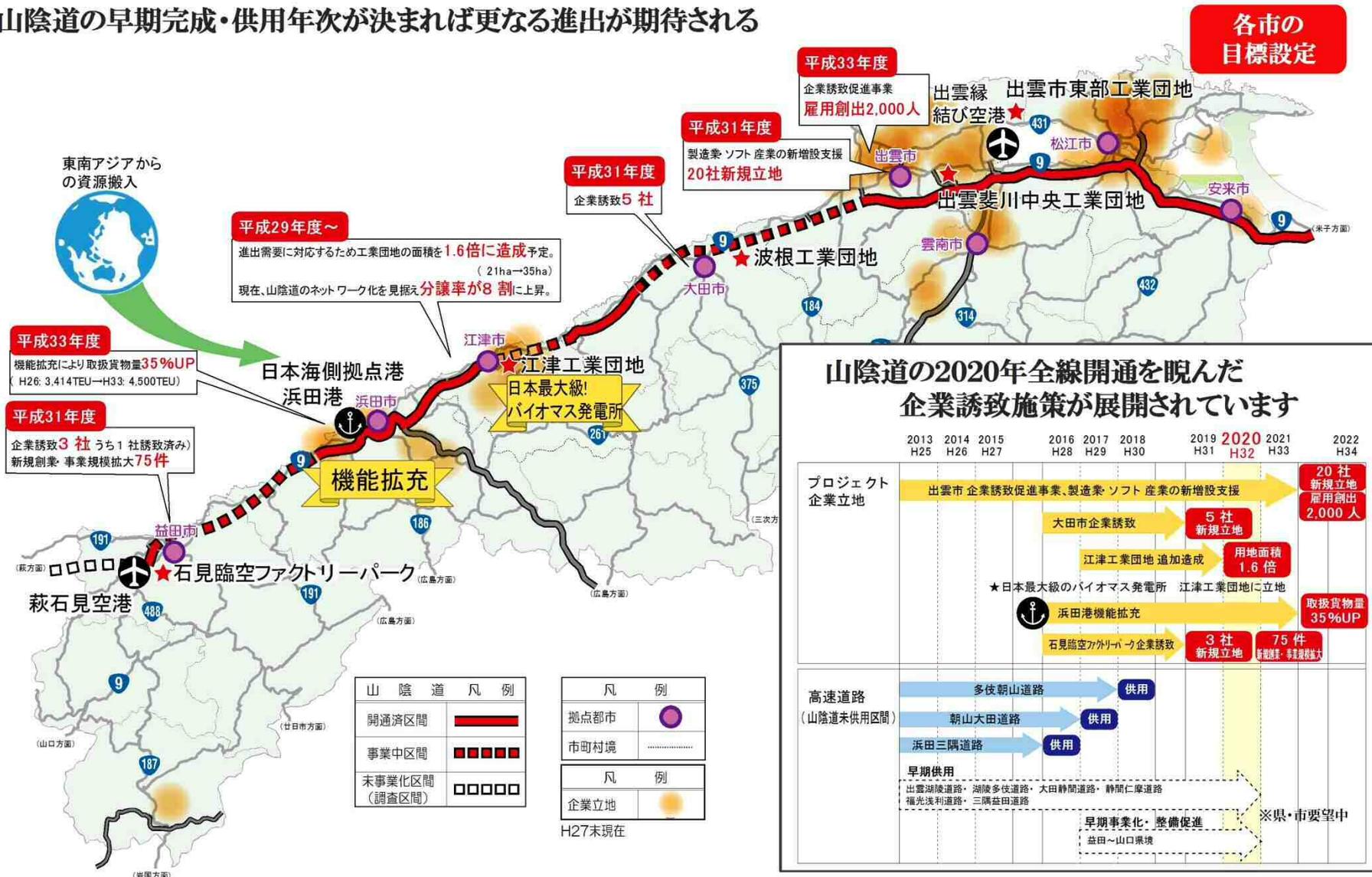


※参考) 会議資料抜粋【 山陰道の利活用について：島根県作成 】

企業誘致

県・地元自治体で企業誘致を推進

平成20～27年度で県外からの企業進出99社。うち91社は高速道路沿線に立地
山陰道の早期完成・供用年次が決まれば更なる進出が期待される



◆ 山陰道の開通による効果 (RAEM-Lightによる予測)

▶山陰道が繋がることで、50年間※で3,700億円の既存産業が成長
 (※国土交通省費用便益マニュアルによる検討年数を参考に50年間の生産増加額を算出)

【参考】

島根県内未開通区間のコスト(事業費+将来維持管理費) 2,692億円
 [H28新規事業採択時評価資料より算出]

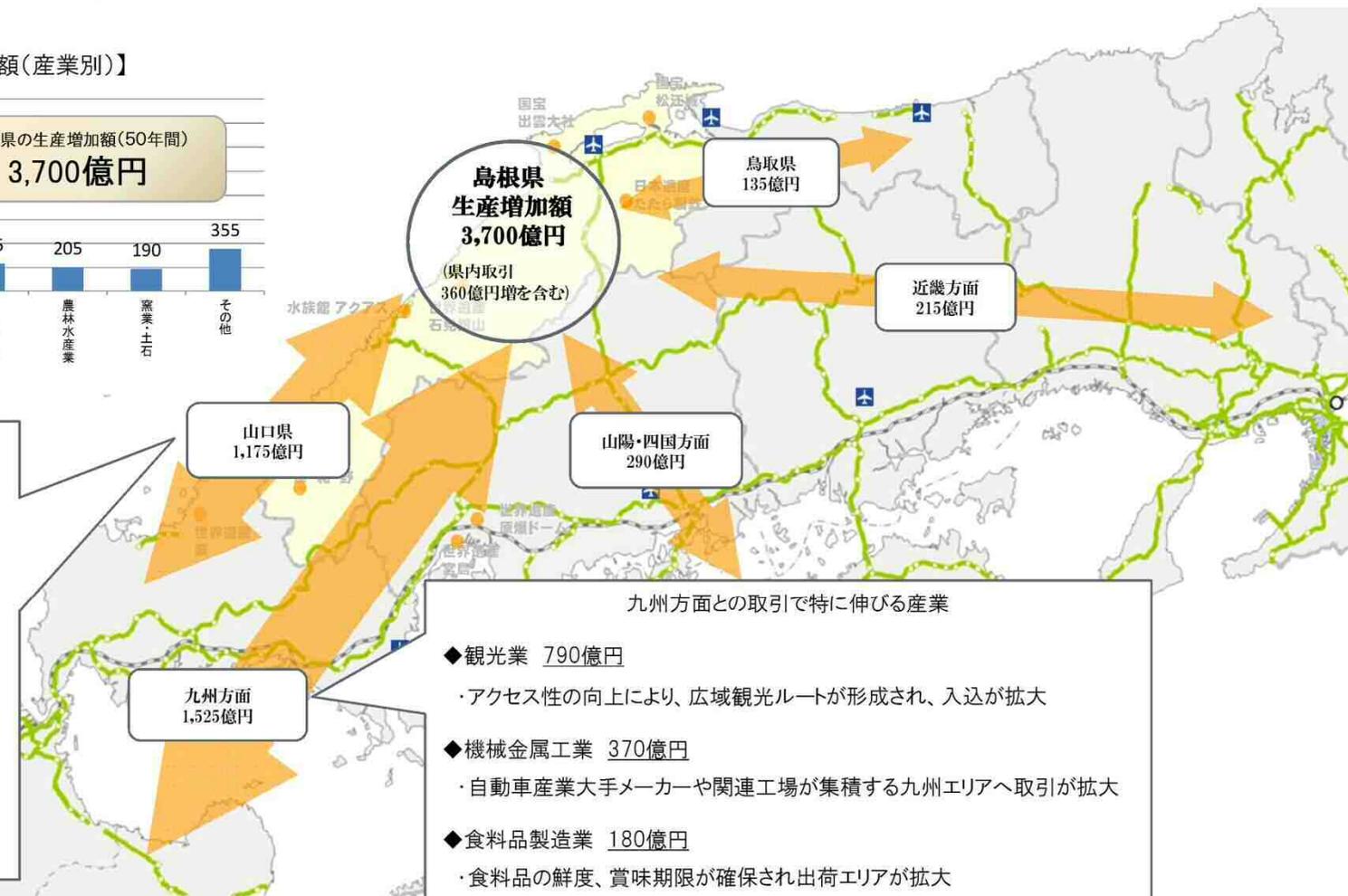
▶観光業(1,340億円)、機械金属工業(940億円)、食料品製造業(425億円)が大きく成長

▶特に九州・山口方面との取引で2,700億円の増加

◆RAEM-Lightとは？

- ・道路整備による時間短縮の効果が、地域の経済にどの程度の経済的インパクトを与えるのかを貨幣単位で計測する手法
- ・新たな企業誘致による誘発効果は、計測対象外

【島根県の生産増加額(産業別)】



山口県との取引で特に伸びる産業

- ◆観光業 250億円
 - ・アクセス性の向上により両県連携の周遊観光ルートが形成され入込が拡大
- ◆機械金属工業 355億円
 - ・自動車、造船など大手メーカーや関連産業との取引が拡大
- ◆食料品製造業 115億円
 - ・食料品の鮮度、賞味期限が確保され出荷エリアが拡大

九州方面との取引で特に伸びる産業

- ◆観光業 790億円
 - ・アクセス性の向上により、広域観光ルートが形成され、入込が拡大
- ◆機械金属工業 370億円
 - ・自動車産業大手メーカーや関連工場が集積する九州エリアへ取引が拡大
- ◆食料品製造業 180億円
 - ・食料品の鮮度、賞味期限が確保され出荷エリアが拡大

※参考) 会議資料抜粋【 山陰道の利活用について：島根県作成 】

◆ 山陰道の開通による浜田・益田圏域の効果 (RAEM-Lightによる予測)

➢ 山陰道が繋がることで、浜田・益田圏域において50年間*で1,330億円の既存産業が成長
 (*国土交通省費用便益マニュアルによる検討年数を参考に50年間の生産増加額を算出)

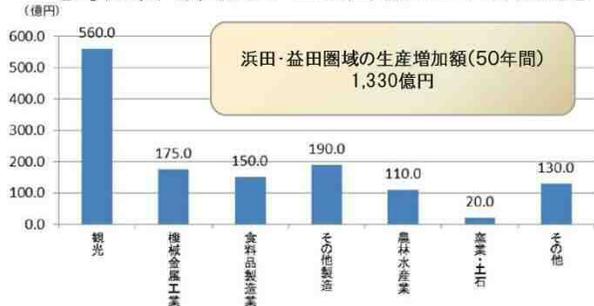
【参考】

山陰道(浜田～益田間)の未開通区間の事業費と将来維持管理費 798億円
 [H28新規事業採択時評価資料より算出]

➢ 観光業(560億円)、機械金属工業(175億円)、食料品製造業(150億円)が大きく成長

➢ 特に九州・山口方面との取引で1,015億円の増加

【島根県西部(浜田・益田圏域)の生産増加額】



(RAEM-Lightによる予測結果)



山口県との取引で特に伸びる産業

◆観光業 95億円

・アクセス性の向上により両県連携の周遊観光ルートが形成され入込が拡大

◆機械金属工業 95億円

・自動車、造船など大手メーカーや関連産業との取引が拡大

◆食料品製造業 55億円

・食料品の鮮度、賞味期限が確保され出荷エリアが拡大

九州方面との取引で特に伸びる産業

◆観光業 360億円

・アクセス性の向上により、広域観光ルートが形成され、入込が拡大

◆機械金属工業 75億円

・自動車産業大手メーカーや関連工場が集積する九州エリアへ取引が拡大

◆食料品製造業 90億円

・食料品の鮮度、賞味期限が確保され出荷エリアが拡大

今後の島根の道づくり・地域づくり意見交換会が開催されました

◆ 地域経済の発展のためには山陰道の整備が急務

1. 概要

島根県内の今後の道づくり・地域づくりの在り方を考える意見交換会が開催され、県内の首長や経済団体の代表ら約 50 人が出席しました。

会議では災害時の代替道路確保の観点や、定住促進や観光振興の観点、地域コミュニティの観点などから山陰道の早期整備を求める意見が多数挙がりました。



- (1) 日時 平成28年10月25日(火) 14:30～
- (2) 場所 ホテル白鳥(松江市千鳥町20)
- (3) 主催 道路整備促進期成同盟会島根県地方協議会(会長:速水雄一 雲南市長)
島根県道路利用者会議(会長:三島進 島根県トラック協会会長)
- (4) 出席者
 - 道路整備促進期成同盟会島根県地方協議会
松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市、雲南市、奥出雲町、飯南町、邑南町、津和野町、吉賀町、海士町
 - 島根県道路利用者会議
島根県トラック協会、島根県舗装協会、島根県土木協会、島根県建設技術協会
 - 経済団体等
島根県商工会議所連合会、島根県商工会連合会、島根経済同友会、島根県道の駅交流会、日本青年会議所中国地区島根ブロック協議会、石見臨空ファクトリーパーク立地企業連絡会
 - 山陰道の早期建設を促進する女性の会
ゆうひライン女性の会、山陰道(出雲-江津間)早期実現推進協議会女性会会長
山陰道(温泉津・江津間)の早期建設を促進する女性の会会長
 - 国土交通省
道路局環境安全課、中国地方整備局道路部、松江国道事務所、浜田河川国道事務所
 - 島根県土木部

2. 会議風景



■ 意見交換会のダイジェスト

産業振興（雇用・観光）・定住と「道」



【島根経済同友会
代表幹事 久保田 一朗氏】

産業振興のため、高速道路のミッシングリンク解消は不可欠。
定住促進を図るうえ、若者たちにとって、道の整備は急務。



【益田市市長 山本 浩章氏】

山陰道が繋がることで、特に九州・山口方面との産業の生産増加が期待される。高速道路が産業や観光の吸引効果を生み出す。



【日本青年会議所中国地区
島根ブロック協議会
会長 平下 智隆氏】

インフラの格差が少しあるだけで、人口・お金が山陽側へ流れている。



【浜田市市長 久保田 章市氏】

地方創生に取り組むうえで産業の振興は不可欠であるが、高速道路が繋がっていないため物流や誘客が進まない。救急搬送や災害時の代替道路として山陰道は必要。



【ゆうひライン女性の会
会長 光永 榮子氏】

将来の子供、孫のためにも高速道路は必要。一日も早く安全で安心な道路がつながるよう私たちも頑張る。



【山陰道（温泉津・江津間）の早期建設を
促進する女性の会 会長 平下 洋子氏】

予算の確保は絶対に気が抜けないもの。若い人たちへ、地域を巻き込んだかたちで、道路の認識を引き継いでいく。



【山陰道（出雲-江津間）早期実現推進
協議会女性会 会長 清水 満利栄氏】

産業の振興を図るうえで、安全で確実な交通の確保は重要な課題。石見地方の人口減少に歯止めには、山陰道の整備は必要。



【島根県道の駅交流会
事務局長 安部 寿鶴子氏】

県東部地域では、高速道路の開通で多くの県外観光客が来店。地方創生を行うため、道の駅は産業振興と地域貢献の役割を担っている

地域コミュニティを結ぶ道路網の実現



【雲南市長 速水 雄一氏】

小さな拠点をつなぐ道路は、子供や高齢者が安心して通れる道路にする必要がある。
小さな拠点を結ぶネットワーク構想の実現に向け、十分な予算の確保を求める。



【奥出雲町長 勝田 康則氏】

幹線道路ネットワークの形成は、公益施設への移動の効率化を図り、コンパクトシティを構築するうえで重要。
県境を越えた医療圏、経済圏の形成のためにも道路予算の確保をお願いしたい。



【吉賀町長 中谷 勝氏】

小さな拠点をつくりながら地域を維持していく中山間地域において、拠点を結ぶ道路の整備は重要。
道路のネットワークは必要であり、力を集結していかなければならない。

道路の安全・安心について



【島根県舗装協会
会長 常松 則義氏】

子供たちの安心した通学路の確保は喫緊の課題である。
安全・安心な道路の整備に必要な予算を確保すること。



【邑南町長 石橋 良治氏】

道路の安全・安心について、地域ぐるみで官民が一体となった監視体制の強化を図っていく必要がある。

今年も雪の季節がやってきました。

雪への備えは万全ですか？



●冬用タイヤの装着とタイヤチェーンの携行

雪道や凍結した道路で立ち往生する車両の約7割は、冬用タイヤ未装着が原因です。

なお、タイヤチェーンの装着は、道路沿いにあるチェーン着脱場や待避所など通行に支障のない安全な場所で行ってください。

「早めに冬用タイヤに交換を！！」



●お出かけ前の道路状況の確認

お出かけ前には、道路の交通規制や目的地までの道路状況をご確認ください。

◇島根県道路カメラ情報◇

道路の積雪状況をカメラ映像でチェックできます。
 国や隣接県の道路情報にもリンクしています。



◇島根県道路規制情報◇

道路の通行規制情報がチェックできます。



拡大すると...



※スマートフォン用、
携帯用のWebサイトはこちら

カメラNO.

※携帯電話用のWebサイトはこちら

※スマホ用のWebサイトはこちら

和田3期地区基幹農道 大田市の農道事業の紹介



和田3期地区 基幹農道



農道を整備することで、農産物の輸送時間の短縮や車両の大型化による輸送の効率化だけでなく、一般交通の利便性も期待されるよ。

| 凡 例 | |
|-------|-------|
| 対象農道 | 赤色 |
| 農道 | オレンジ色 |
| 国道 | 青色 |
| 一般県道 | 茶色 |
| 主要地方道 | 緑色 |
| 市町村道 | 黄色 |

和田3期地区基幹農道

本地域は、大田市南西部に位置し、水稻を中心に野菜や果樹等が栽培されている地域です。

本農道の整備により、広域的な農産物の輸送の効率化や地域住民の生活道路としての利用も見込まれ、農村地域の生活環境の改善が期待されます。

また、山陰道の仁摩石見銀山ICから大田市役所までの最短のアクセス道路となり、国道9号線や県道の通行規制時などには迂回路としても利用可能となります。

施工状況紹介

【事業概要】

- ・事業名: 和田3期地区 農山漁村地域整備交付金
- ・工期: 平成21年度～平成30年度(予定)
- ・延長: 713m
- ・幅員: 全幅員7.00m、車道幅員5.50m

【施工状況】

軽量盛土やアンカー工を施工しています。



【軽量盛土工】

急峻な地形に道路擁壁を構築するため、擁壁背面に比重0.64t/m³のエアミルクを打設する軽量盛土工法を採用しています。

現在は、各種構造物の施工を進めており、
早期供用開始を目指しております。